

# サロベツ原野

(さろべつげんや)

湿地のタイプ：高層・中間・低層湿原、淡水湖

位置：北緯45度03分、東経141度42分／標高：3～7m／面積：2560ha／湿地のタイプ：高層湿原、中間湿原、低層湿原、淡水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：北海道豊富町、幌延町／登録：2005年11月／国際登録基準：1、3、6



サロベツ原野／左からワタスゲ、ホロムイイチゴ、ツルコケモモ、モウセンゴケ

## 湿地の概要：

サロベツ原野は、北海道の北端、稚内市の南約40kmに位置する泥炭湿原で、その中心部の高層湿原など2560ヘクタールが条約湿地に登録されている。

かつては東西8km、南北27km、面積1万4600ヘクタールの広大な湿原だったが、1960年代以降の大規模開発で急速に減少した。それでも、サロベツ川が湿原の周りを大きく周回していたため、水位の変動は小さく栄養分の供給は少ないなど、高層湿原が発達する条件が整っていたために、平地の湿原としては日本最大級の高層湿原が残された。

湿原は西側の南北に走る砂丘で日本海と隔てられ、湿原中央部には、ホロムイイチゴイボミズゴケ群落、ホロムイソウミカヅキグサ群落、ナガバノモウセンゴケウツクシミズゴケ群落、ヌマガヤーホロムイヌゲ群落など高層湿原、中間湿原、低層湿原が同心円状に発達している。そして南側にはパンケ沼、パンケ沼をはじめ大小の沼が点在する。

かつてサロベツ原野は大きな潟湖で、4000年ほど前から砂丘の発達によって

海と遮断されて湿原の形成がはじまった、その過程でできた海跡湖沼である。

## 色とりどりの湿原植物：

春から秋にかけ、サロベツ原野では100種以上の植物が花を咲かせる。ツルコケモモ、モウセンゴケ、ワタスゲ、ヒメシャクナゲ、エゾカンゾウ、ホロムイリンドウなど、色あざやかな花々で湿原は埋めつくされる。北側のサロベツ原生花園とパンケ沼周辺には木道が整備され、これらを間近に観察できる。北西端にサロベツ湿原センターがあるほか、南側にはサロベツ原野を360度見渡せる展望塔がある。

## 渡り鳥の中継地：

パンケ沼、パンケ沼は、水鳥の繁殖地、渡り鳥の中継地として重要で、オオヒシクイ、コハクチョウは東アジア地域個体群の個体数1%を定期的に支えている。シマアオジの数少ない繁殖地のひとつでもある。

## 湿原再生事業：

サロベツ原野の一部では、地下水位の低下と地盤沈下によって湿原の乾燥化が進み、ササが侵入し、面積を拡大してい

る。そのため現在、湿原再生の取り組みがはじまっている。

【高層湿原】低層湿原、中間湿原の発達をへて、泥炭の集積がさらに進むと、地表面が盛り上がり、降水や海霧など天水だけで涵養される貧栄養性の高層湿原になる。ミズゴケ類が優占し、貧栄養、過湿な条件下で生育できるツツジ科の低木や、モウセンゴケなどの食虫植物、小形のスゲ類などが群落を形成するようになる。

## ●関係自治体

幌延町役場 Tel: 01632-5-1111

豊富町役場 Tel: 0162-82-1001

